

2012

広報

# おばま 3



《表紙》

宮川小学校体育館で、ジャンボ巻きずし作りが行われました。宮川地区の親子約80人が参加し、長さ15mの巻きずしを2本作り上げました。出来上がった巻きずしは切り分けられ、参加者は、今年の恵方「北北西」を向いておいしそうにほおぼりました。

(1月29日)

【特集】 身を守るための情報

# 特集 身を守るための情報



岩手県陸前高田市（平成23年3月14日）写真提供：若狭消防組合

## 災害が起きたら

災害はいつ、どこで起きるかわかりません。いざという時に冷静に対応するには、日ごろからの心構えが大切です。

災害が発生したとき、自分を、家族を守り、さらに地域を守るために、何をすればいいのか、何をしておけばいいのか、その一つが正しい情報の収集です。

## 正しい情報選択

災害時には、市から市民の皆さんに音声告知放送やチャンネルO、データ放送や市公式ホームページなど、さまざまな媒体で情報をお伝えしています。

また、テレビやラジオからも簡単に情報が入手できます。

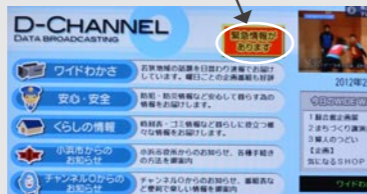
しかし、東日本大震災発生直後、チェーンメールなどで、誤った情報が流れることがありました。市など行政機関が発信する正確な情報で、冷静な判断と行動をする必要があります。

現在、音声告知放送は、ケーブルテレビの有線網を利用して市民の皆さんに情報をお伝えしています。

しかし、東日本大震災のような大きな災害が起きた場合、有線網の断線で、市内全域が不通になることも考えられます。万が一に備えて、情報伝達手段の多重化が不可欠になりました。

### データ放送で緊急情報を入手

- ①チャンネルを9chに合わせる
- ②リモコンの「d」ボタンを押す
- ③画面の「緊急情報」にカーソルを合わせて決定ボタンを押す



## 多彩な情報伝達

### エリアメール

市では、平成23年8月からNTTドコモが提供する緊急速報「エリアメール」のサービスを活用し、災害時には、市内の「災害・避難情報」を配信できるようにしました。

緊急速報「エリアメール」は、気象庁が発信する緊急地震速報だけでなく、小浜市内にいるNTTドコモの携帯電話利用者に、「災害・避難情報」を一斉配信するサービスです。エリアメールの受信者は、対応機種であれば、申し込み不要、月額使用料や通信料は無料ですが、携帯電話の設定が必要です。

対応機種や受信設定など、詳しくはNTTドコモの専用ホームページ（<http://www.nttdocomo.co.jp/service/safety/aramail/index.html>）をご覧ください。

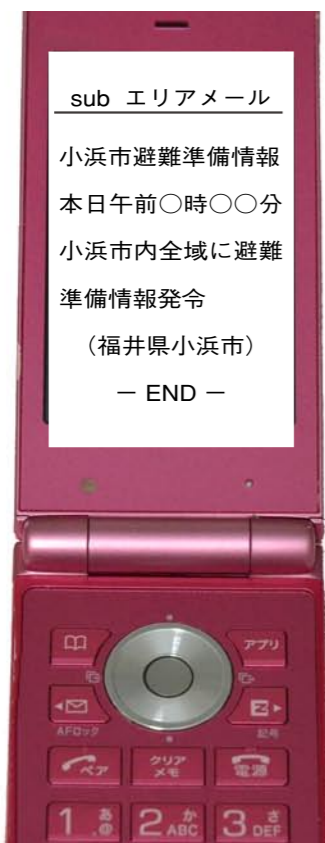
【配信内容】  
避難準備情報、避難勧告、避難指示、土砂災害警戒情報など

※NTTドコモ以外の携帯電話についても今後対応を予定しています

## 伝達手段の多重化

現在、音声告知放送は、ケーブルテレビの有線網を利用して市民の皆さんに情報をお伝えしています。

しかし、東日本大震災のような大きな災害が起きた場合、有線網の断線で、市内全域が不通になることも考えられます。万が一に備えて、情報伝達手段の多重化が不可欠になりました。



【エリアメールイメージ図】

sub エリアメール  
小浜市避難準備情報  
本日午前〇時〇〇分  
小浜市内全域に避難準備情報発令  
(福井県小浜市)  
- END -

昨年3月11日の東日本大震災発生から1年が過ぎようとしています。この大震災は、死者1万5,840人、行方不明者3,317人（警視庁・2月7日調べ）の甚大な被害をもたらしました。

この中には、正しい情報を把握していたら、助かった命もあったかもしれません。

地震や豪雨など自然災害の発生を防ぐのは不可能ですが、その被害を最小限に食い止める必要があります。それにはまず、正しい情報の収集です。

今月は、災害時の情報に焦点を当て、市の取り組みなどを紹介します。

■問い合わせ 生活安全課

## 防災メール

現在整備中（今春稼働予定）の防災メール（仮称）も、災害・避難情報などを配信します。

緊急速報「エリアメール」は、小浜市内にいれば自動的にメールを受信できますが、市内から離れると受信できず、内容は避難勧告など、より緊急性の高い情報のみに限られます。

す。

それに対し、防災メールは、メールを受信するための登録が必要になりますが、携帯の機種に関係なく、電波が届く場所であれば、市内にいてもメールを受信できます（パソコンメールでも登録可能）。また、緊急性の高い情報だけでなく、市から市民の皆さんに災害の注意を呼びかける情報も受信できます。

## 小浜地域SNS「OBAMAなう！」

昨年の12月に小浜地域SNSの愛称を募集したところ、県内外から169件の応募がありました。その中から、地元の高校生が考えた「OBAMAなう！」に決定しました。

3月1日から「OBAMAなう！」は市民の皆さんにも加入していただき、本格稼働します。このサイトでは、まちづくりや趣味などさまざまな話題について書き込みできるコミュニティをはじめ、写真を掲載できるアルバムや日記などが利用できます。

また、市の公式ホームページと連動しているため、市からのお知らせや緊急情報も閲覧できます。

東日本大震災では、SNSが活躍したように、「OBAMAなう！」もコミュニケーションのツールだけでなく、災害時の利用も期待できます。

※「OBAMAなう！」は利用者からの招待メールで加入できます



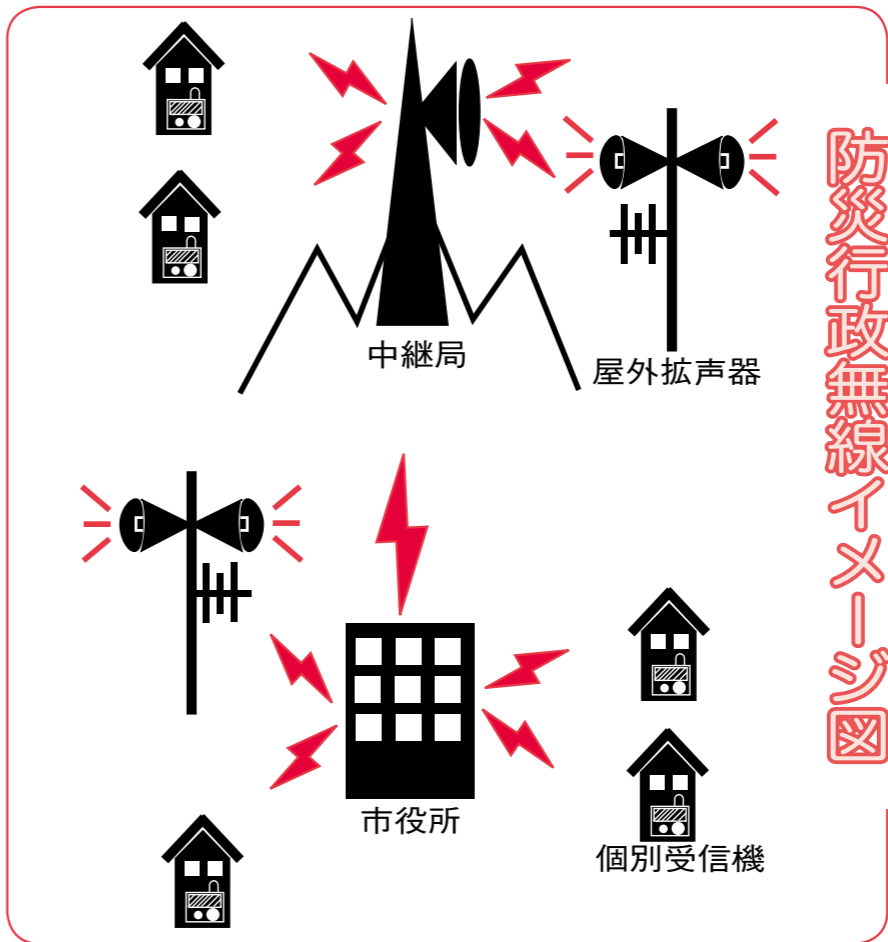
「OBAMAなう！」のパソコン画面

## 防災行政無線

市では、平成25年度の完成を目指して、防災行政無線の整備に着手しました。現在の音声告知放送では、屋外にいる人には情報を伝えることができず、また、ケーブルテレビの有線網が断線してしまうと、音声告知放送ができなくなります。そのため、市内全域を対象に防災

行政無線の整備を行い、公共施設など主要施設に屋外拡声器を、全世帯に個別受信機を設置します。これにより、屋内外の市民や観光客に即時に防災情報を伝えることができます。防災行政無線の導入は、断線の心配のない情報伝達手段として期待され、災害時の市民の生命、身体、財産の安全を守るための防災基盤が強化されます。

## 防災行政無線イメージ図



## 地域で連携

### 自助・共助・公助

東日本大震災以後、地域住民の防災意識が高まっています。「自分たちの地域は自分たちで守る」という気持ちから、防災訓練を行ったり、自主防災組織の設立が進んだりしています。

災害時には、自助・共助・公助が

互いに連携し一体となることが必要です。特に、自助、共助の高まりが、被害を最小限に防ぎ、早期の復旧・復興につながります。

※自助：家庭で日頃から災害に備えたり、災害時には事前に避難したりするなど、自分の身は自分で守ること

### 自主防災組織

大規模な災害が発生した場合、公助による防災活動が著しく低下することが予想されます。

※共助：地域の災害時要援護者の避難に協力したり、地域の方々と消防活動を行ったりするなど、周りの人たちと助け合うこと  
※公助：市役所や消防・警察による救助活動や支援物資の提供など、公的支援のこと

被害の防止、軽減のためには、災害に直面する住民の自主的な防災活動、すなわち住民みずからが初期消火や被災者の救出救護、避難などを行うことが必要です。

これらの防災活動を行うに当たり、各自がバラバラに行動するのは効果はあまり期待できません。地域住民が組織的に行動し、情報共有することによってその効果が最大限に発揮できるのです。

そこで、区単位などで自主防災組織を編成し、日ごろから災害に備えて、防災訓練などを積み重ねておくことが大切です。

## 熊野区自主防災会

しげた とくゆき  
会長 重田 篤之さん  
(熊野・47歳)

### 地域で防災活動



熊野区では、区の役員や地元消防団を中心とした「自主防災会」を組織して、区独自で防災訓練を行っています。訓練では、人員確認や炊き出し、消火栓の点検、AEDの講習会、防災グッズの展示などを行っています。

災害になると、まず逃げ遅れるのが高齢者です。わたしたちの年代層が高齢者を補助していく体制ができてきました。でも、訓練を重ねるにつれて、新たな課題も出てきますので、次のステップとして考えていきたいですね。

防災訓練をすることで、区民の防災意識の高まりが感じられます。特に、昨年の東日本大震災や5月の豪雨もありましたので、なおさらです。

自主防災組織は、横の連携がよく、情報伝達も早いものです。今後も活動を継続し、国富地区全体で連携していきたいですね。



防災訓練の様子（平成23年7月3日）

### 家族で防災会議

いつ起こるか分からない災害。特に、平日の昼間は、家族がバラバラの状態では被災する可能性も考えられます。離れ離れになった場合に落ち合う場所を決めておいたり、災害用伝言ダイヤルの使い方を事前に確認しておいたりすることが必要です。

災害から家族を守り、被害を最小限に抑えるため、家族で防災会議を開いて、それぞれがどう行動するかを話し合っておくことが大切です。